

9 【 秋田県立秋田高等学校 】

秋田県立秋田高等学校同窓会仙台支部

秋田県立秋田高等学校校歌

土井 晚翠 作詞
梁田 貞 作曲

一、 天上はるかに太平山の
姿はけだけし三千余尺
長江流れて六十幾里
海にと馳せ行く雄物川波
高きと長きと無言の教
紅顔日に日に顧み思ふ
わが生わが世の天職いかに
秋田の高校一千健児
三、 篤胤 信淵 ふたつの巨霊
生れし秋田の土こそ薫れ
先蹤追ひつつ未来の望
ゆたかに健児は其途進む
金鉄つらぬく陽気の如く
精神奮ひて学びてやまず
敬天愛人理想を高く
おのれを修めて世のためつくす
五、 あゝ友 桜の旭日ににほふ
園の名「千秋」君また遠く
故山の伝統光をはなち
母校のほまれを拡げよよもに

秋田県立秋田高等学校は、1873年・明治6年に現在の秋田市に創立され今年で145年目となります。今年4月現在の在籍生徒数は男子455人、女子377人、合計822人です。

今年の第100回全国高校野球選手権で秋田県金の足農業が準優勝しましたが、秋田県勢としては第1回大会以来の103年ぶりの決勝進出と言われました。その1915年・大正4年の第1回大会で惜しくも京都二中に敗れたものの決勝に進出したのが、わが母校の前身である秋田中学でした。さて、秋田高校校歌は、1922年（大正11年）に制定され、作詞は当時の同窓会長が二高（現東北大学）時代の恩師の土井晚翠先生に依頼し、作曲は「城ヶ島の雨」などを作曲された梁田貞（やなだただし）先生です。

歌詞にある「わが生わが世の天職いかに」、「おのれを修めて世のためつくす」は、社会貢献を歌ったもので卒業生に人気が高く、在校生たちもあらゆる場面で学校生活の目標としております。秋田高校同窓会は、1915年（大正4年）に創立され、現会員29,000人余、同仙台支部は1973年（昭和48年）に発足し、毎年1回支部総会を開いて仙台市と近くに居住する同窓生の親睦を深めています。